



会派みどり
小野 保之

いじめ防止対策の取り組みについて

質問 いじめはどの学校においても存在すると思う。いじめが放置、隠ぺいされることにより自殺という最悪の事態にならないためにも早期発見、対応が不可欠であり、そのため、いじめの認知件数を積極的に上げることが重要と考える。学校、保護者、教育委員会を含む、行政すべての関係者の認知度合について伺う。

答弁 学校においては、いじめはどの学校にも起こり得ると考え、いじめを積極的に認知していこうと組織的な体制を整えて、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に努めています。

学校は保護者に対して子どもの様子に変化や不安があった時は、学校はじめ関係機関への相談やいじめの相談電話の利用を促すなどして、子どもの悩みや不安を受け止めその解消に努めるようお願い

しており、教育委員会としてもいじめの未然防止、早期発見、早期対応に向けた取り組みが充実するよう2回のいじめアンケートの実施、いじめ相談カードの各学校への配付などを含めた支援や子育て支援分野などとも連携を図り、これに関する情報の共有に努めていきます。

質問 いじめ防止対策推進法が周知され、小・中学校で道徳が教科化されたが教育委員会や学校などでは取り組みが進んでいるのか。

答弁 教育委員会において滝川市いじめ問題対策連絡協議会を設置して、関係する機関、団体との連携を協議し、効果的な啓発活動を実施しています。特別な教科道徳については、今年度から小学校で道徳の年間指導計画を作成し実施しており、次年度から中学校で実施予定となっております。



滝川市いじめ根絶シンボルマーク顕彰作品



会派みどり
渡邊 龍之

滝川市立高等看護学院生の奨励金について

質問 慢性的な看護師不足の解消対策として奨励金制度導入について伺う。

答弁 看護師確保は、医師の招へいととも重要な課題となっており、ため、返済を伴わない奨励金制度の考えは、看護師確保の対策としては有効と考えます。

しかし、多額の財政負担を伴うという問題もあります。本市の場合は今のところ6割ほどの市立病院への就職率を維持してきていますが、安定した就職率を確保し高めていくには奨励金などの制度創設は有効な手段となり得ると考えます。

制度創設は、5年後、10年後の市立病院の役割がどうなっているかそれに合わせて看護師確保の見込みがどうなっているかなどの大きな問題と深い関係が出てきますので今後さらに検討をしていきたい

と考えます。

学校の安全対策について

質問 登下校中の子どもが巻き込まれる交通事故、不審者による子どもの安全を脅かす事件が発生しているが、学校の安全確保に対する見解を伺う。

答弁 学校安全計画や危機管理マニュアルの策定が義務付けられたとともに、地域の関係機関と緊密な連携に努めています。各小中学校においては、地域の皆さんのご協力を得ながら児童生徒の見守りが行われています。

質問 大阪府の地震で小学生が犠牲となる痛ましい事故があった。通学路の安全確保のための点検の実施について伺う。

答弁 報道を受け教育委員会として学校の塀に関して目視点検を行った結果は、当時の建築基準内であると判断しています。各学校区における通学路の点検については、民間の物件も対象となるため、難しさもありますが、文部科学省や道教育委員会からの通知などがあるとされますので、これに基づく点検の実施を考えています。